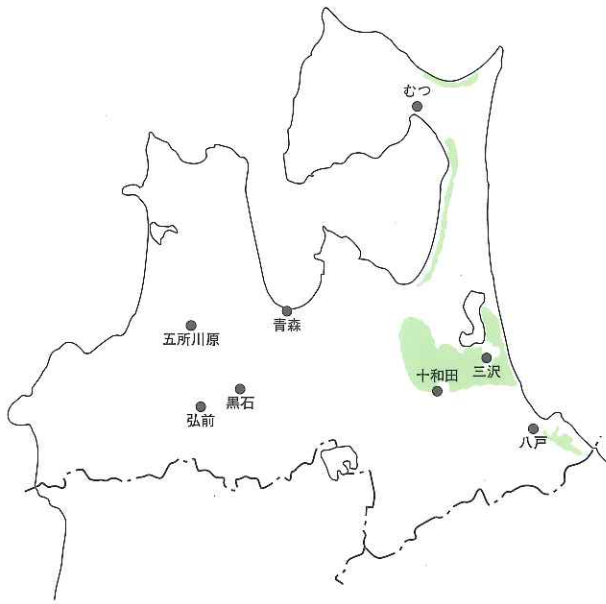


## ⑧ 台地開拓農村景観

### ■ 当該景観類型の主な分布



### ■ 景観特性基礎指標

類型 内 空間	水平方向の スケール感	大 (大規模に広がる農地)
	垂直方向の スケール感	小 (ところどころ防風林の帯が出現する程度)
	空間の形態	
	基調となる 色彩	茶 (畑) 濃緑 (人工林) 明緑 (水田・春、夏) 黄土 (水田・収穫期)
視覚的な支配線		・山稜線 (外部類型) ・平地林 (防風林)
眺望上の目標		・農地の中に点在する集落 (その周りを囲む樹林) ・所々農地を縁どる防風林

### ■ 景観特性

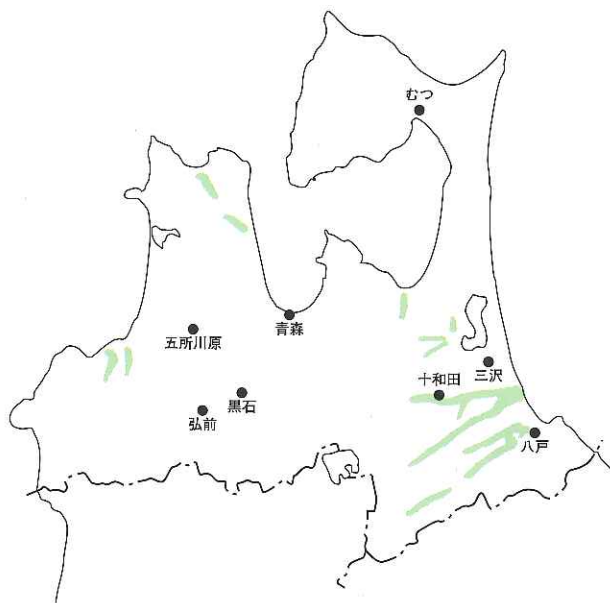
- ・ほとんど起伏のない台地上に開拓によって形成された大規模な農地と直線的な形態をもつ集落の景観。
- ・整然とした水田や畑地が広がり、道路や農地の区画は概ね直線的である。
- ・ところどころ防風林、人工林が農地を縁取り単調な景観に変化を与えている。また、面的に広がる平地林 (防風林) が農地や集落間にモザイク状に出現する。
- ・集落は概ね低層の木造家屋で構成され、街道沿いに帯または面状に集積する。また、家屋が農地の中に散在する集落もある。

### ■ 景観形成上の配慮事項

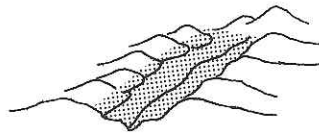
- ・各種行為等の実施に際しては、地域の風土と密接に関係し、景観景観の基調をなす平地林 (面的に広がる防風林) との調和に配慮する。
- ・主要道路等主な視点場からの水平を基調とする眺望を障害しないよう留意し、建築物・工作物等の設置に際しては特に高さにも配慮するとともに、平地林等の樹林に連続性を障害しないよう設置位置、規模に配慮する。また、周辺景観との調和を図るため、その色彩、素材、周辺の緑化 (防風林等との連続性確保) 等に配慮する。

## ⑨ 谷底平野農村景観

### ■ 当該景観類型の主な分布



### ■ 景観特性基礎指標

類型 内 空 間	水平方向の スケール感	中（下流）～小（中流） （段丘崖にはさまれる。）
	垂直方向の スケール感	中～大 （谷底部を挟む段丘崖が連続する。段 丘崖に近づくほど「大」）
	空間の形態	
	基調となる 色彩	明緑（水田・春、夏） 黄土（水田・収穫期） 濃緑（段丘崖の緑）
視覚的な支配線		・崖線 ・河川
眺望上の目標		・山（外部類型）

### ■ 景観特性

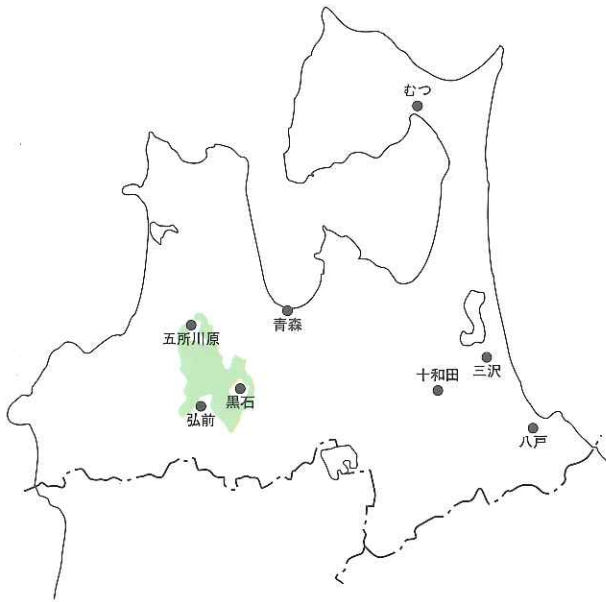
- ・ 河川、緑濃い段丘崖に挟まれているある程度の広がりをもつ谷底平野における主に水田と集落からなる景観。
- ・ 川筋方向に視野が開け、連続する段丘崖上端部や隣接する低山の最も手前の稜線によってスカイラインが形成されている。
- ・ 集落は谷底の平坦部に川筋に沿って帯状に集積し、概ね低層の木造家屋で構成されている。

### ■ 景観形成上の配慮事項

- ・ 各種行為等の実施に際しては、スカイラインを形成し、かつ眺望上重要な要素となる崖線や低山の斜面緑地との調和に十分配慮する。
- ・ 建築物の設置に際しては、木造家屋群の伝統的な形態を尊重するよう、可能な限りその形態、素材、色彩等に配慮する。
- ・ 段丘崖上端部において、そのスカイラインを阻害しないように建築物・工作物等の設置に際しては、その規模、形態、色彩等に十分配慮する。
- ・ 谷底の平野部における建築物・工作物等の設置に際しては、川筋方向の眺望を阻害しないようその規模、形態等に十分配慮する。

## ⑩ 低地農村景観(水田・果樹園混在型)

### ■ 当該景観類型の主な分布



### ■ 景観特性基礎指標

類型 内 空間	水平方向の スケール感	大 (低地に立地する広がりのある田園景観)
	垂直方向の スケール感	小 (所々防風林や、遠方に山稜線がかすんで望める程度)
	空間の形態	
	基調となる 色彩	明緑(水田・春、夏)、黄土(水田・収穫期)、濃青(川面)、赤(りんご・秋)、白(りんごの花・春)
視覚的な支配線		・河川(堤防) ・水路 ・遠方の山稜線(外部類型)
眺望上の目標		・山(岩木山)(外部類型)

### ■ 景観特性

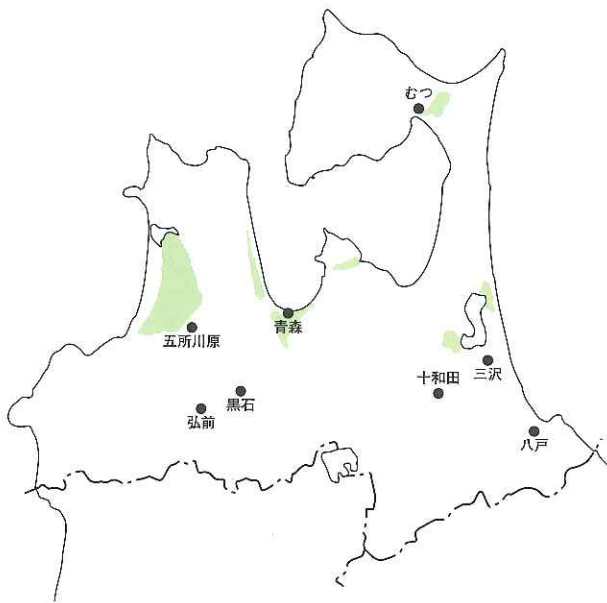
- ・低地に広がる水田と、微高地における果樹園、集落からなる景観。
- ・平野の中の微高地に広がる果樹園とともに、街道に沿って帯・面状に家屋が集積し集落が形成されている。一部の果樹園は津軽平野を取り囲む山地の山辺に続き、山麓の果樹園とともに一体的な果樹園の景観を形成している。
- ・ほとんど起伏のない田園の中で果樹園や集落とそれらを取り囲む樹林が景観に変化を与える。
- ・中央を岩木川が静かに流れ、その河川敷には果樹園が形成され、河川と果樹園が一体となった穏やかな景観が広がる。

### ■ 景観形成上の配慮事項

- ・各種行為の実施に際しては、平野における単調な景観に変化を与え、多様性を増す果樹園の景観との調和に配慮する。
- ・一定の樹高で広がりのある果樹園景観を阻害しないよう、果樹園周辺に建築物・工作物等を設置する際は、特にその高さに配慮するとともに、外周空間への植樹等により、可能な限り違和感を軽減するよう配慮する。
- ・特に主要な沿道における大規模建築物等の設置に際しては、沿道側への植栽等により建築物の立面が大きく露出しないよう配慮する。

## ⑪ 低地農村景観（水田型）

### ■ 当該景観類型の主な分布



### ■ 景観特性基礎指標

類型 内 空 間	水平方向の スケール感	大 (沖積低地に広がる大規模な水田)
	垂直方向の スケール感	小
	空間の形態	
	基調となる 色彩	濃緑（防風林） 明緑（水田・春、夏） 黄土（水田・収穫期）
視覚的な支配線		・人工林のトップ ・河川（堤防） ・水路 ・遠方の山稜線（津軽山地）
眺望上の目標		・防風林

### ■ 景観特性

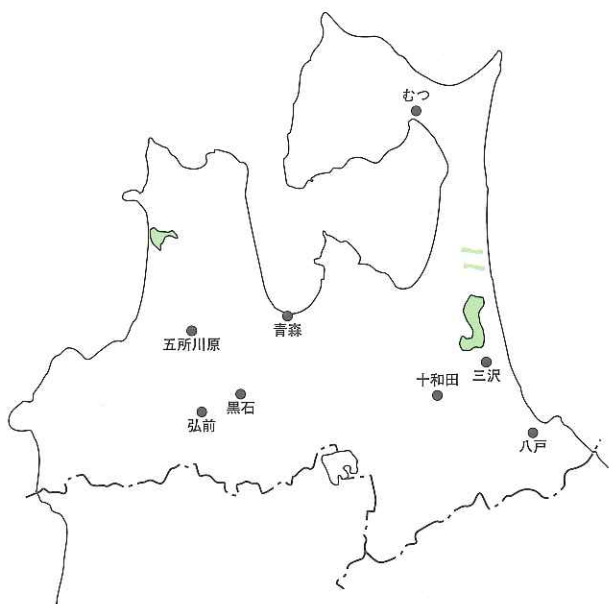
- ・ 河川の中・下流の低地に主に広大な水田が広がり、島状に集落や人工林が点在する景観。
- ・ 島状に点在する防風林につつまれた集落や鎮守の森が水平基調の景観に変化を与える。
- ・ 集落は道路に沿って帯状または面状に集積するものや、山の辺（低山との境界）に帯状に集積するものがある。多くは低層の木造家屋で構成され、防風林等の屋敷林を伴う。
- ・ 低山と隣接する山の辺の部分では低山の斜面の樹林と一体となり、池沼等の良好な自然の景観や落ちついた集落の景観が形成されている。

### ■ 景観形成上の配慮事項

- ・ 水田景観の水平基調を阻害しないよう、建築物・工作物等の設置に際してはその規模、形態、色彩等に十分配慮するとともに、外周に植栽等を施すことにより、周辺の景観になじむよう配慮する。
- ・ 主要な沿道への大規模な建築物・工作物の設置に際しては、道路からのセットバックや駐車場まわりや接道部の植栽等により可能な限り周辺景観への影響を緩和するよう配慮する。
- ・ 建築物の設置に際しては木造家屋群の伝統的な形態を尊重し、可能な限りその形態、素材、色彩等と調和させるよう配慮する。

## ⑫ 低地湖沼景観

### ■ 当該景観類型の主な分布



### ■ 景観特性基礎指標

類型 内 空間	水平方向のスケール感	大 (湖面の広がり)
	垂直方向のスケール感	小 (遠方のかすむ山稜)
	空間の形態	
	基調となる色彩	濃緑 (湖を取り囲む樹林) 濃青 (湖面)
視覚的な支配線		・湖を取り囲む樹林 ・湖岸線 ・山稜線 (外部類型)
眺望上の目標		・山 (外部類型)

### ■ 景観特性

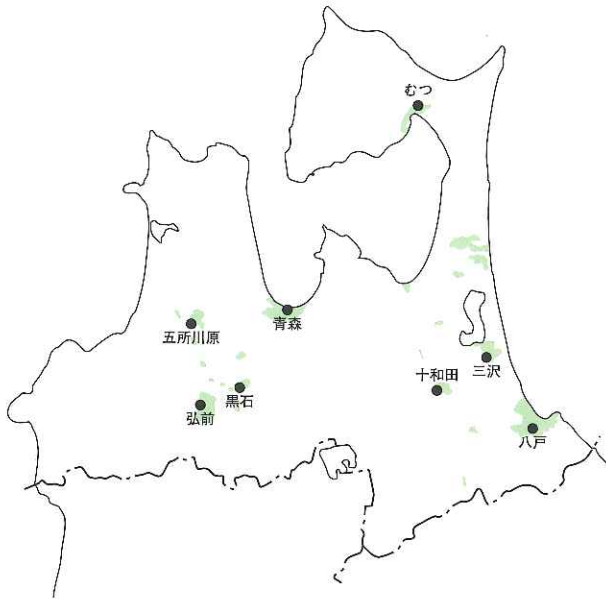
- ・河川の河口付近に形成される潟湖の広がりのある景観。
- ・湖畔の連続する樹林がスカイラインを形成する。
- ・湖の周辺には、水田、畑等の田園景観 (外部類型) が広がる。
- ・小川原湖北部の海沿いの低地には、沼が南北に連続して出現し、湖沼群を形成している。それぞれ湖畔の樹林に縁取られ、良好な景観が展開している。

### ■ 景観形成上の配慮事項

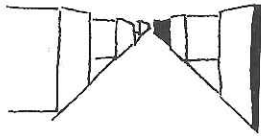
- ・各種行為等の実施に際しては、景域景観の基調をなす湖畔の樹林の連続性を阻害しないよう、十分配慮する。
- ・湖畔における建築物・工作物等の設置に際しては、湖畔の樹林の分断を避け、湖畔の快適な空間を形成するよう湖畔からのセットバック、規模、形態、色彩、素材等に十分配慮する。
- ・湖岸整備に際しては、湖畔周辺の自然景観との調和を図り、その工法、素材等に配慮する。

# 13 市 街 地 景 観

## ■ 当該景観類型の主な分布



## ■ 景観特性基礎指標

類 型 内 空 間	水平方向の スケール感	小 (市街地内は見通しがきかない)
	垂直方向の スケール感	大~小 (中心街においては沿道に中高層が建ち並ぶ。周辺においては低層の住宅が並ぶ)
	空間の形態	
	基調となる 色彩	白、ベージュ、茶色 (中・高層建築物) 赤・青 (住戸の屋根の色) 等様々な色彩が混在
視覚的な支配線		・道路 ・河川 ・山稜線 (外部類型)
眺望上の目標		・各地区のランドマーク的な建築物、記念塔等 ・山 (外部類型)

## ■ 景観特性

・主に低地や平坦な台地に立地し建築物が相当な密度で密集している景観。中高層からなる中心部が形成され、その周りを低層の住宅が取り囲む。

### 商業地

・駅前や主要な街道沿いに中・高層の建築物が建ち並び、にぎわいのある景観が展開する。比較的大きな商業地では、アーケードが架けられさらさらににぎわいを増している。  
・市街地周縁部においては主要な街道沿いに大規模な商業施設が広大な駐車場を伴って開発されている。また、大型の看板・広告塔等が設置され部分的に統一感のない沿道景観が見られるところもある。

### 工業地

・大都市の港湾 (臨海部) においては、工業地帯が形成され、大規模プラント等が建ち並ぶヒューマンスケールを超えた厚な景観が展開する。色彩においては、様々な色が混在する市街地中心部に比べ、灰色系の色彩が基調となっている。  
・市街地周縁部においては工業団地が造成され、周辺の住宅に対し、大規模施設が突出した印象を与える景観となっている。

### 住宅地

・市街地の中心部をとりまくように、低層の木造住宅が集積し、低い家並みがスカイラインを形成している。  
・郊外においては、新たに住宅団地が造成され、形態、色彩ともに似た戸建て住宅が建ち並ぶ画一的な景観が展開している。

### 歴史的町並み

・中心市街地には、歴史的な町並みや伝統的な建築物が存在し、地域の個性を表す景観となっている。

## ■ 景観形成上の配慮事項

・駅前通りや郊外のバイパス等の主要な沿道においては、接道面からのセットバックや緑化等によりその道路の個性を際立たせる等、景観の軸の形成に配慮する。

### 商業地

・商店街や、個々の商業施設の装飾 (建築物の意匠や看板のデザイン等) は、周辺景観との調和に留意しながら、地域の個性を創出するよう、その形態、意匠、色彩等に配慮する。

### 工業地

・港湾部における建築物・工作物等の設置に際しては、海と内陸との連続性を阻害しないよう、その高さ設置位置等に十分配慮する。

### 住宅地

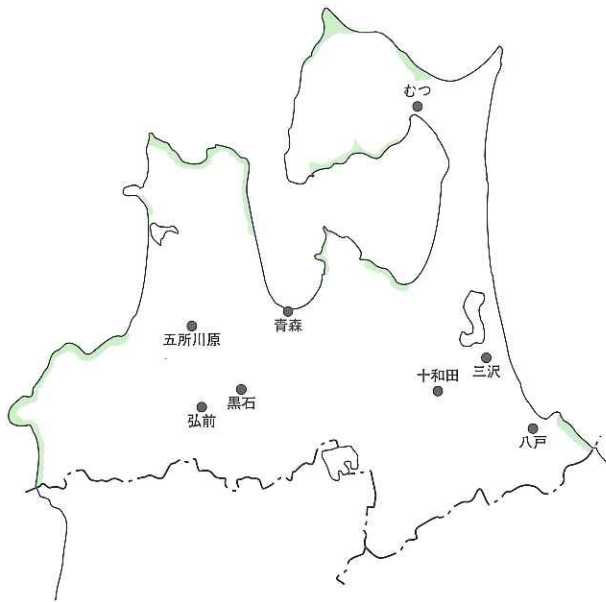
・低層の町並みを形成しているところでの建築物・工作物の設置に際しては、高さや規模に十分配慮する。特に、大規模なものについては形態の工夫や敷地境界からのセットバック、植栽等により、突出した印象や圧迫感を与えないよう配慮する。

### 歴史的町並み

・歴史的な町並みや建築物、社寺等の歴史的資源が醸し出す景観との調和に配慮する。

# ⑭ 漁 村 景 観

## ■ 当該景観類型の主な分布



## ■ 景観特性基礎指標

類 型  内 空 間	水平方向の スケール感	小～中 (海岸沿いに帯状。わずかな広がり)
	垂直方向の スケール感	中～大 (海岸付近まで山地がせまっている部 分は大)
	空間の形態	
	基調となる 色彩	明緑 (水田・春、夏) 黄土 (水田・収穫期、畑) 濃緑 (背後の山地の斜面) ベージュ、薄茶、薄灰 (家屋・漁港関連施設)
視覚的な支配線		・海岸線 ・山稜 (外部類型：背後の山地の最 も手前の稜線)
眺望上の目標		・岬 ・海岸の特徴的な岩

## ■ 景観特性

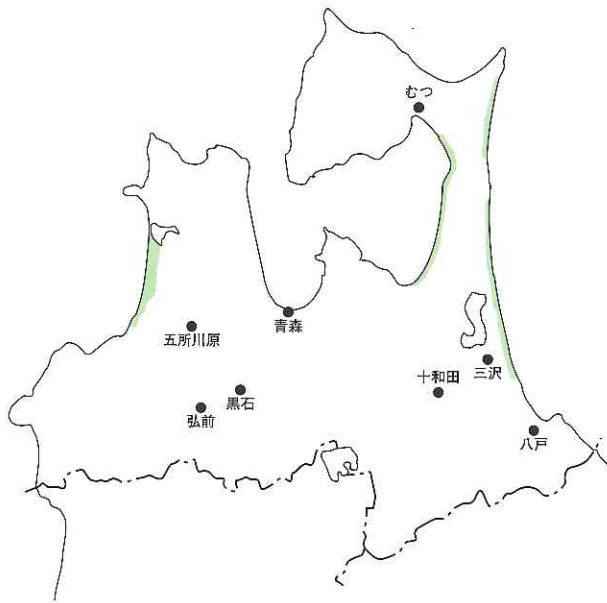
- ・複雑に変化する海岸線と漁港、わずかな平坦地に形成された集落や農地からなる景観。
- ・背後に山地が迫る場合、わずかな平場に集落が密に集積し、道路ぎりぎりに家屋の壁面がせまる。
- ・集落が形成されている入江部分は砂浜、他の部分は概ね複雑に変化する礫浜で構成され、集落と集落の間には自然性の高い海岸景観が見られる。
- ・背後の山地の斜面 (外部類型) や段丘崖が景観上重要な要素となっている。
- ・主な視点場となる海岸沿いの道路からは入江の奥に海へと伸びる岬が眺望上の目標となる景観が展開する。

## ■ 景観形成上の配慮事項

- ・各種行為の実施に際しては、集落に近接して背景をなす斜面の樹林との調和に配慮する。
- ・また、自然性の高い植生や特徴的な樹林が残る海岸部においてはそれらとの調和に配慮する。
- ・集落の背後の急傾斜地における地形改変等にあたっては、周辺の樹林との連続性に配慮する。
- ・ランドマークとなる岬部における建築物や工作物の設置に際しては、岬の形態を阻害しないよう設置位置や高さに配慮する。

# ⑮ 海岸砂丘景観

## ■ 当該景観類型の主な分布



## ■ 景観特性基礎指標

類型 内 空 間	水平方向の スケール感	中 (海の方向には開けているが内陸方向 は防風林などに遮られる)
	垂直方向の スケール感	小～中 (砂丘のわずかな起伏に樹木の高さが 加わる程度の高さ)
	空間の形態	
	基調となる 色彩	濃緑 (マツ等の針葉樹からなる防風林) 濃青 (海) 黄土色 (砂浜、砂丘)
視覚的な支配線		・防風林 ・海岸線
眺望上の目標		・防風林 ・海

## ■ 景観特性

- ・長大な直線・円弧状の砂丘海岸と内陸側の主に針葉樹の防風林を伴う砂丘からなる景観。砂丘部分は、主にマツ等の針葉樹からなる防風林に被われている。
- ・防風林が水平に近い緩やかなスカイラインを形成している。
- ・一部には、防風林の背後に優れた自然性を有する湿地帯の景観が展開している。また、土地改良により農地として整備されている部分もあり、防風林に囲まれた農地景観が新たに形成されている。

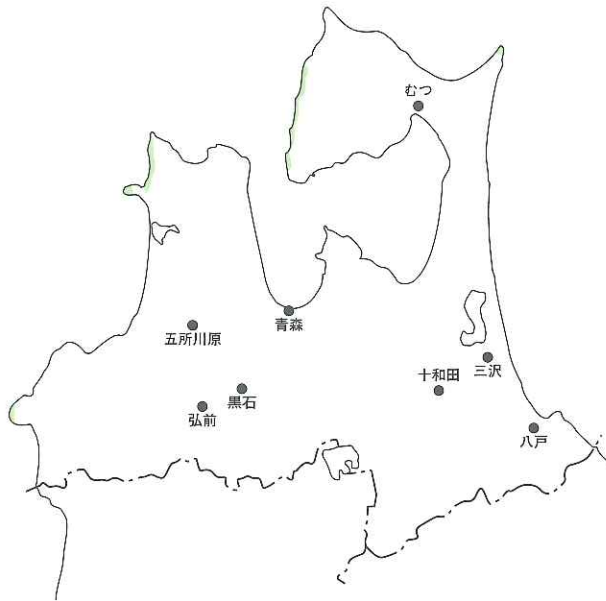
## ■ 景観形成上の配慮事項

- ・各種行為等の実施に際しては、防風林、湿地帯等、砂丘地帯特有の優れた自然景観との調和に十分配慮する。
- ・主に防風林によって形成されるスカイラインの連続性を阻害しないよう、建築物・工作物等の設置に際しては、その規模（高さ）に十分配慮する。
- ・防風林帯周辺での土地改変の際は、海岸や内陸側の平野から見えないよう外周の樹林の残置に配慮する。

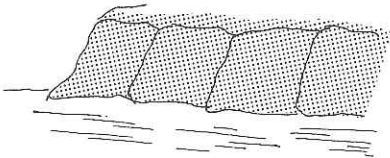


## ⑯ 海岸岩壁景観

### ■ 当該景観類型の主な分布



### ■ 景観特性基礎指標

類型 内 空 間	水平方向のスケール感	小 (海の方へへの広がり「大」)
	垂直方向のスケール感	大 (海から立ちあがる断崖)
	空間の形態	
	基調となる色彩	濃灰、淡灰 (断崖、岩礁) 濃青 (海面) 濃緑 (断崖上端部の樹林)
視覚的な支配線		・断崖の上端
眺望上の目標		・断崖面 ・海岸の特徴的な岩

### ■ 景観特性

- ・山地がそのまま海へと迫り、断崖・海食崖が連続して切り立つ壮大な海岸景観。
- ・崖面は浸食により多彩な岩肌を持ち、また、海岸線も複雑に入り組み、変化に富む景観が連続し県内有数の景勝地となっている。
- ・断崖上端部は、山地から連続する樹林に被われ、スカイラインを形成している。

### ■ 景観形成上の配慮事項

- ・各種行為の実施に際しては、壮大な景観を形成する断崖及び断崖上端部の樹林によって形成されるスカイラインの連続性を阻害しないよう十分配慮する。
- ・海岸部における建築物・工作物等の設置は、自然度の高い海岸景観の連続性を阻害しないよう十分配慮する。

## 用語の解説

用 語	読 み	解 説
板羽ぶき	いたはぶき	下見板張り。建築物の壁面等が板材で造られているもの。
オーバースケール		周辺の景観の骨格をなしているもの（例：背景となる山並み、建ち並ぶ家屋の家並みなど）が形造る高さや大きさなどを越えている様。
崖線	がいせん	連続した崖の縁（肩）の部分。しばしば地域景観の骨格をなす要素となる。
崖面	がいめん	崖の斜面。一般的に急斜面で開発の対象になりにくいことから、地域の景観の縁に覆われた背景となることが多い。
河岸崖	かがんがい	河川の浸食作用によって形成された崖。その崖線や崖面は、河川沿いからの眺望を構成する要素として重要である。
河口デルタ	かこうでるた	三角洲。河口まで運ばれてきた微細な土砂等が海や湖に堆積し、河口付近を埋め立ててできた地形。青森県においては岩水川河口（津軽平野北部）が顕著である。
仰角	ぎょうかく	視点より上方にある視対象を見上げた場合の視線の角度。
山体	さんたい	山を「山」として確認できる範囲。各々の山の形によりその範囲は異なる。
山腹	さんぶく	山の頂上とふもととの中間の部分。
山稜	さんりょう	山地・丘陵地などの山頂付近や屋根の部分。
色調	しきちょう	色彩の強弱・濃淡の調子。色合い。
視軸	しじく	あるものを見た場合の視線の方向。ランドマークなどの目立つもの、道路や川、海岸線など、直線的な要素に誘導されやすい。
自然林	しぜんりん	人為的な影響をまったく、もしくは軽微にしか受けず、自然に成立した樹林。
視点場	してんば	ものを見る際に視点の位置する「場」、もしくはその周辺の空間。
斜面林	しゃめんりん	山の斜面や崖地に成立した樹林。しばしば地域景観の縁の背景をなす要素となる。
修景緑化	しゅうけいりょっか	一定の空間に美観や趣を与える。もしくは景観上好ましくないものを隠すこと目的として木や草を植えること。
樹冠	じゅかん	木の一番外側の部分。樹林の場合、線や面として見えることが多い。
植生	しょくせい	ある土地に成育している植物の総称。
人工林	じんこうりん	種子・苗木・挿穂などを造林地に定着させる人工造林によって仕立てられた森林。
水平基調	すいへいきちょう	地域景観の骨格をなす要素が、高さの整った家並み・山並み・樹林、平坦な田園などの概ね水平なもので構成されていること。
スカイライン		山・建物などと空を画する輪郭。
セットバック		外壁を後退させて建築すること。
段丘崖	だんきゅうがい	河川の氾濫原や湖・海の堆積面が水面の相対的な低下等により台地場の地形を形成したものの外縁。

用語	読み	解説
テクスチャー		組成構造や仕上げの方法のちがいで生ずる素材感のこと。
デザイン		意匠のこと。例えば統一感ある良好な景観を形成するには、個別の建築物等の形態や色彩、素材などからなる意匠を統一させる、あるいは地域固有の要素を用いるなどが有効な手段となる。
二次林	にじりん	山火事や伐採などで、元来あった植生が破壊されたあとに生じる森林。
比高	ひこう	ある地域内の地表の最高点と最低点との高さの差。起伏の大きさを表す量。
ピスタ		一定方向に視線をもった風景、またはそれを形作るための手法。見通し、通景、見通し景と訳される。
平地林	へいちりん	平野部に立地する森林の総称。一般的に里山とも呼ばれる。青森県の場合、平野や台地の防風林、防雪林や燃料を採るための薪炭林である場合が多い。
モチーフ		ものを作り上げる際の主題となるもの。
ランドマーク		例えば特徴ある山並み、遠くから見える建築物など、眺望上の目印となるもの、あるいは視線を集めやすいもの。
稜線	りょうせん	山地・丘陵地などの山頂付近や屋根の部分。

## 地域別景観特性ガイドプラン

発行：平成9年3月

青森県企画部企画調整課

〒030-70 青森県青森市長島1丁目-1

電話 0177-22-1111

印刷：第一印刷株式会社

※景観形成業務は、平成9年4月より環境生活部生活文化課景観班で所管します。